

後期計画に基づく若い世代への取り組みについて

健康福祉局健康政策課

1. 若い世代の食の現状

20～30 歳代の若い世代は、「仙台市食育推進計画〔第2期〕」の中間評価の結果にもあるように、食習慣についての課題が多く、今年度が初年度である「仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画」では、特に若い世代への働きかけと次世代への継承に力を入れて事業を推進することとしている。

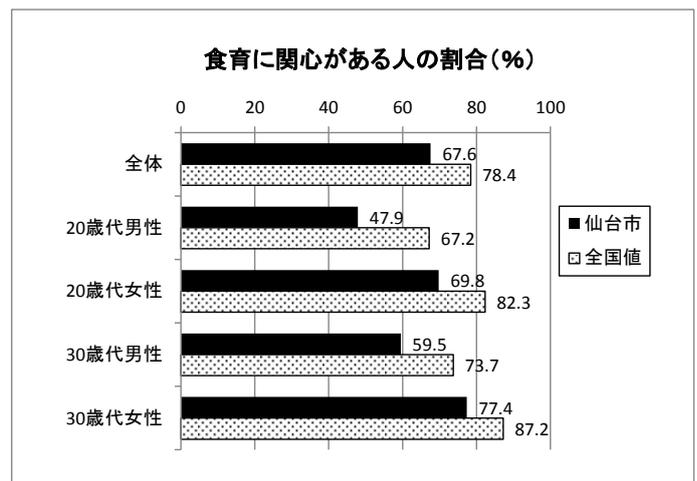
ここで改めて仙台市の20～30 歳代の若い世代をとりまく食の現状を、平成29年度に実施された農林水産省の調査結果と比較した。

データ出典：仙台市：平成28年度仙台市民の健康意識等に関する調査報告書
 全国値：平成29年度食育に関する意識調査報告書（農林水産省）
 調査対象年齢：20歳以上の者

①若い世代で食育に関心がある人※の割合

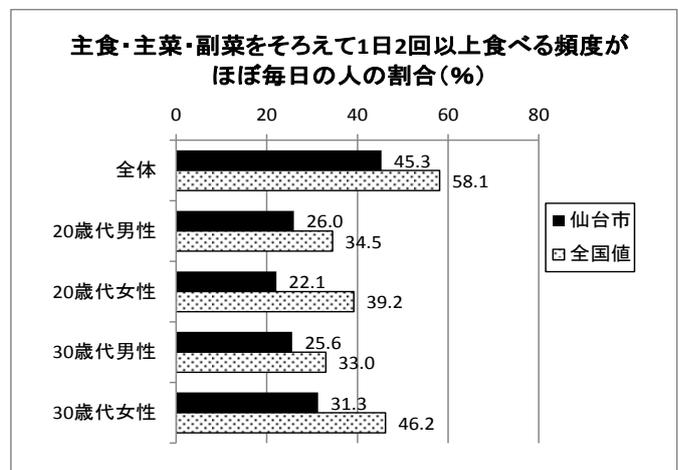
食育に関心がある人の割合は、男女とも全国値より低く、特に20歳代男性が低い傾向にある。また、男性に比べて女性の方が関心が高く、全国値も同様の傾向が見られる。

※「関心がある」「どちらかといえば関心がある」の割合の合計



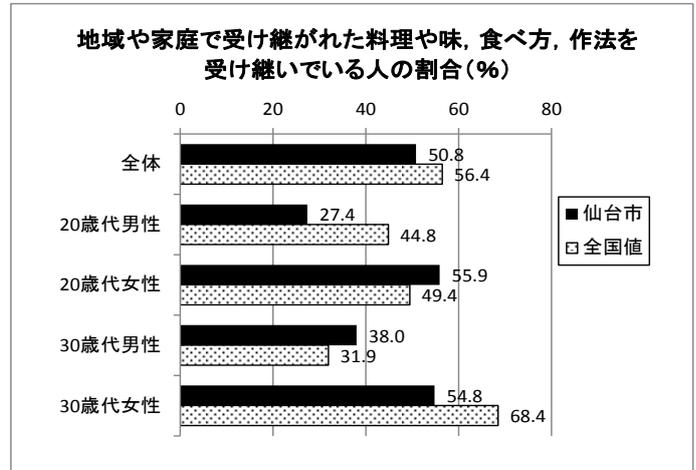
②若い世代で主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をほぼ毎日とっている人の割合

主食・主菜・副菜をそろえて1日2回以上食べる頻度がほぼ毎日と回答した者についても、全国値より低い傾向である。特に20歳代女性の割合が低くなっている。



③若い世代で地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を受け継いでいる人の割合

郷土料理や伝統料理など、地域や家庭で受け継がれてきた料理や味、箸使いなどの食べ方、作法を受け継いだと回答した者について、特に20歳代男性が全国値より低い傾向である。女性については、仙台市全体の割合よりも高く、20歳代では、全国値より高い傾向が見られる。



このように、当市の若い世代は、食育への関心、健康的な食習慣の実践、食文化の伝承において、全国と比較しても課題が大きい。また、20～30歳代は、子育て世代として次世代に食の大切さを伝えていく立場でもあるため、次世代への継承においても取り組むべき課題であると考えられる。

2. 若い世代に向けた取り組み

上記のことから、若い世代が、食への興味・関心を持ち、積極的に食に関わるために、さらに自分自身はもとより、子育て世代として次世代に食の楽しさや大切さを伝えていく役割を担うために、様々な取り組みが必要である。

「仙台市食育推進計画〔第2期〕後期計画」では、若い世代や子育て世代が食の大切さを理解し、実践につなげ、さらに次世代に伝えるための取組を強化することとしている。今後もさらに、関係機関が連携し、この世代を対象とした事業を積極的に進めていきたいと考える。